

ニマイバー水和剤

■種類名：ジエトフェンカルブ・ベノミル水和剤
 ■有効成分：ジエトフェンカルブ----- 25.0%
 ベノミル----- 25.0%
 ■化管法指定物質：N-[1-(N-7'フルカハ'モル)-1H-2-ヘンソ'イタ'ソ'リル]カルハ'シ酸メ'ル
 (ベノミル) [第1種] ----- 25.0%
 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩（アルキ基の炭素数が10から
 14までのもの及びその混合物に限る。） [第1種] 1.2%

■登録番号：第23975号(住友化学登録)
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：2017.09.27
 ■性状：類白色水和性粉末 45µm以下
 ■有効年限：5年
 ■包装：500g×20袋

【特長】

- ▶ ベンズイミダゾール高度耐性菌に負の交差耐性を示すジエトフェンカルブを含有しているため、耐性菌発生地域でも使用できる。
- ▶ 浸透移行性を有しており、高い予防効果と治療効果を示す。
- ▶ 耐雨性に優れ、散布後の降雨による影響が少ない。
- ▶ 幅広い病害に対して防除効果を示し、複数病害の同時防除が期待できる。

【適用内容】(2024年11月末日現在)

作物名	適用病害名	希釈 倍数 (倍)	使用 液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	ジエトフェ ンカルブを 含む農薬の 総使用回数	ベノミルを含む 農薬の総使用回数
キャベツ	菌核病	1000	100～ 300㍈/ /10a	収穫 7日前 まで	3回 以内	散布	3回以内	7回以内 (種子粉衣は1回以内、 は種後は6回以内)
レタス	灰色かび病 菌核病			収穫 14日前 まで				5回以内 (種子粉衣は1回以内、 は種後は4回以内)
たまねぎ	灰色かび病 灰色腐敗病			収穫 7日前 まで	5回 以内		8回以内 (種子粉衣は1回以内、 育苗培土混和、灌注また は苗根部浸漬は合計1回 以内、散布は6回以内)	
トマト	灰色かび病 菌核病 葉かび病 すすかび病 うどんこ病			6回以内 (種子への処理は1回 以内、土壌灌注は2回 以内、散布及び常温 煙霧は合計5回以内)				
ミニトマト	うどんこ病 菌核病 すすかび病 灰色かび病 葉かび病			3回以内 (種子への処理は1回 以内、土壌灌注は2回 以内、散布は3回以内)				
ピーマン	うどんこ病			4回以内 (種子粉衣は1回以内、 は種後は3回以内)				
なす	灰色かび病 菌核病 黒枯病 うどんこ病 褐色斑点病 すすかび病							
きゅうり	灰色かび病 菌核病 炭疽病 褐斑病							
すいか	菌核病 炭疽病 うどんこ病 つる枯病			5回 以内	6回以内 (種子粉衣は1回以内、 は種後は5回以内)			

作物名	適用病害名	希釈 倍数 (倍)	使用 液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	ジエトフェ ンカルブを 含む農薬の 総使用回数	ベノミルを含む 農薬の総使用回数
豆類 (未成熟、ただ し、えだまめ、 さやいんげ ん、さやえん どうを除く)	灰色かび病 菌核病 炭疽病	1000	100～ 300 ㍓ /10a	収穫 30 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内	6 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 灌注は 2 回以内、 散布は 3 回以内)
えだまめ	灰色かび病 菌核病 紫斑病 炭疽病							
さやいんげん	灰色かび病 菌核病 炭疽病			収穫開始 14 日前 まで				
さやえんどう				収穫前日 まで				
豆類 (種実、ただ し、だいず、 らっかせいを 除く)	灰色かび病 菌核病 炭疽病	1000 ～ 2000	8～16 800 ml /10a	収穫 14 日前 まで	4 回 以内	無人航空 機による 散布	4 回以内	5 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 は種後は 4 回以内)
だいず	褐色輪紋病 灰色かび病 菌核病 炭疽病						4 回以内 (種子粉衣 は 1 回 以内)	
	紫斑病							
いちご	うどんこ病 炭疽病 灰色かび病	1000	100～ 300 ㍓ /10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	6 回以内	9 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 苗根部浸漬は 1 回 以内、育苗期の灌注は 3 回以内、本圃定植後 の灌注は 1 回以内、 散布は 3 回以内)
かき	落葉病 炭疽病 灰色かび病	200～ 700 ㍓ /10a			3 回以内		6 回以内	
茶	炭疽病 新梢枯死症 褐色円星病 もち病	1000 ～ 1500	200～ 400 ㍓ /10a	摘採 14 日前 まで	1 回		1 回	1 回
	輪斑病							

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 薬剤耐性菌の出現を防ぐため本剤の過度の連用はさけ、作用性の異なる薬剤と組み合わせて輪番で使用すること。
- 本剤を使用した場合には、チオファネートメチルを含む剤を使用しないこと。ただし、種子への処理、種籾への処理および塗布処理を除く。
- 本剤はエトフェプロックス乳剤またはダイアジノン乳剤と混用した場合、凝固物を生成するため混用をさけること。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液との混用はさけること。

- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意を守ること。
 - ◆ 散布は各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
 - ◆ 散布にあつては散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
 - ◆ 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
 - ◆ 散布薬液の飛散によって自動車やカラートタンの塗装等に影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
 - ◆ 散布終了後は次の事項を守ること。
 - ① 使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に処理すること。
 - ② 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態および散布方法に合わせ調節すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- ❖ 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに、衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 魚毒性等：使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。
また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。